

■明日から冬休み



12月21日(土)から1月8日(水)まで冬休みとなります。この冬休み中に徹底的に1・2学期の復習をして苦手克服に努めましょう。なお、後の記事にもありますが、3年生で大学等の一般受験を控えている諸君は、追い込み・まとめの時期です。残された時間を大切にしてください。では、年明けの1月9日(木)に元気に登校してくることを期待しています。

■大学入学共通テスト情報

大学通信発行の「UNIV PRESS NEWS」特別号(2024年12月9日号)から大学入学共通テストの最新情報をお伝えします(以下に引用)。3年生で受験する人は情報をよく確認して臨んでください。

2025年1月18日(土)・19日(日)の2日間で実施される大学入学共通テストの確定志願者数が発表された。総志願者数は49万5171人で、前年の志願者数より3257人(0.7%)増となった。

全体では前年の4.0%減から増加に転じたが、内容は現役生の増加によるところが大きく、既卒者は前年同様、減少となっている。現役生は前年の4.0%減から増加に転じた一方、既卒者は前年と同率の4.8%減だった。

増加の主要因は、18歳人口の変化だ。来春卒業見込みの現役生も今春より1万人弱(1.1%)増加し、前年の4.4%減から上昇に転じている。また、高校等新規卒業見込者に対する共通テスト志願者の割合(現役志願率)は前年から0.3%増の45.5%となり、過去最高を更新した。全志願者に対する現役生の割合は86.0%(0.7%増)となった。また、女子の割合は45.4%で、前年より0.2%増加。現役生は前年と同率だが、既卒者が前年の29.8%から0.7%増加している。

出身高校が所在する都道府県別の志願者数では、東京が最多の6万7579人。以下愛知、神奈川が3万人台、大阪、埼玉、千葉、兵庫、福岡が2万人台で続く。逆に最も少ないのは鳥取の2343人で、島根、高知、徳島、秋田も2千人台だった。

確定志願者数と同時に発表された2025年度共通テスト利用大学は698校(国立81校、公立95校、私立522校)で、国立1校減、私立8校減で前年より9校減。このほか専門職大学11校(公立3校、私立8校)も参加しており、こちらは前年より公立が1校増となった。

今回の共通テストは、新課程移行に伴い科目・試験内容等の大幅な変更が行われているのが特徴だ。もちろん旧課程履修者も不利益にならないよう、配慮がなされている。

なお、追試験は本試験1週間後の1月25日・26日に実施される。1月はインフルエンザや風邪などで体調を崩しやすい時期でもある。生活リズムを維持し、万全の体制で試験に臨もう。

■大学の一般入試に向けて

1月18日(土)～19日(日)の大学入学共通テスト以降、大学の一般入試が本格化していきます。それに向けて、学習面、生活面について、最低限のことですが、アドバイスしておきたいと思います。少しでも参考にして、悔いの残らない受験にしてください。なお、受験校の入試情報をよく確認し、十分に対策を講じたうえで本番に臨みましょう。



〈学習面〉

- 教科・科目にもよるのですが、基本的には、これまで積み上げてきたものを信じて、例えば、英語であれば、単語集・熟語集、文法問題集、構文集などを繰り返し徹底して復習してみましょう。問題集や模試などでミスしたところにマークなどを施しているのであれば、そこを徹底して確認するというのも方法です。また、日本史や倫理・政経などは、直前まで追い込みが効く場合があります。最後まであきらめずにがんばりましょう！！
- 実践的な問題(赤本など)に取り組む場合は、自信を失わないように注意しましょう。もしできなかった箇所があれば、必ず解答・解説にじっくりと目を通して、よく確認しておきましょう。分からないままにしておくのは、最もまずいことです。

〈生活面〉

- どうしても夜遅くまで学習する習慣が身についてしまっている人が多いと思いますが、人間の脳は、起床してから3時間以上たたないとしっかりと働かないとも言われますので、実際の入試に向けて、冬休みのうちから、試験開始の時間から逆算して早起きする習慣をつけておきましょう。
- 暴飲暴食は避け、規則正しい生活をするように心がけましょう。当然、風邪やインフルエンザ、感染性胃腸炎なども要注意ですが、今年度も新型コロナウイルスに感染しないよう、十分に対策をして試験会場に行くようにしましょう。日々の体調管理を怠らず、万全の健康状態で臨みましょう。

〈試験当日〉

- 最寄り駅周辺は多くの受験生で混み合うことが考えられますので、早めに会場に到着できるよう、若干、余裕を持って出発するように心がけましょう。例えば、東京都内の大学を受験する場合、同じ駅に複数の大学があるケースもありますし、大学の建物が乱立していて「会場がどこか分からない」と迷ってしまうこともあるかもしれません。多くの生徒がスマートフォンで位置情報を確認しながら会場に向かうものと思われそうですが、受験会場を間違わないよう注意してください。大学によっては、かなり多くの受験生で殺到するケースもあることでしょう。そんなとき、多くの受験生に圧倒されないことも大事です！！

■合格体験記

3年生の合格体験記です。今回は成蹊大学に合格した小野友寛君（3年4組）と陸上自衛隊に内定している寺西大空君（3年6組）です。ぜひ参考にしてください。

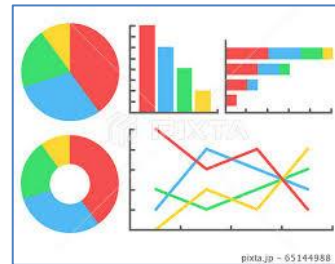
【合格体験記】 小野友寛君（3年4組）
成蹊大学経済学部現代経済学科合格（総合型選抜）

私は、成蹊大学の経済学部を総合型選抜で受験し、合格をいただくことができました。

一次試験では、「自分の将来の夢は社会にとってどのような意義があるのか」という課題が出され、1200字以内で図やグラフを用いてレポートを作成しました。

二次試験では、「AIで変わる労働市場」についてプレゼンテーションを10分間行い、それに対する質疑応答、さらに基礎知識を測るテストがありました。入試のポイントは自分が抱えている夢をどれだけ本気で叶えたいかを面接官に伝えることだと思いました。また進路活動を通して、受験は本当に情報戦だと感じました。たくさんある大学の中から自分のやりたいことに合った大学を選択して早く対策をしていくことも重要だと感じました。

志望理由書からプレゼンテーション、面接の対策まで本当にたくさんの方々にお世話になりました。応援して支えてくださった先生、親、友達すべての方々感謝しています。本当にありがとうございました。残りの3ヶ月間は自分がサポートする側に回り、感謝の気持ちを持って謙虚に生活していきたいと思います。大学に入学してからも自分の夢に向かってがんばります。



【合格体験記】 寺西大空君（3年6組） 陸上自衛隊一般曹候補生内定

私は陸上自衛隊の一般曹候補生に内定しました。陸上自衛隊を志願した理由は、能登半島の地震の時のニュースで、自衛隊の皆さんが被災地のために尽力されている姿を見て、とても感動したからです。

私も小さい頃に東日本大震災で被災し、さまざまな人の助けを受けて生活することができました。これからは私が困っている人のために手助けをしたいという思いを強く持っています。

試験内容は、一次試験では学科試験で国語、数学、英語が課されます。二次試験は面接と身体検査です。試験を受ける上で、1ヶ月前から過去問題集に何度も取り組みました。面接では各先生方に練習相手をしていただきました。就職を希望する人は、余裕を持って準備し、希望の仕事に就けるよう頑張ってください。



■母を亡くして思うこと・・・

私事で恐縮ですが、11月30日（土）に筆者の母が亡くなりました。くも膜下出血での急逝でした。亡くなる1週間前には電話で会話しており、元気で張りのある声を耳にしていました。まさか、その3日後の11月26日（火）の夕方に、父から「お母さんに話しかけても何の反応もないんだよ」という電話がかかってくるとは夢にも思いませんでした。

その電話があつてからすぐに福島市内の病院に救急搬送され、筆者も駆けつけました。医者から「くも膜下出血の最悪の状態のレベルで、今夜中に亡くなる可能性もある」と告げられました。集中治療室で昏睡状態の母を横目に、今起きていることをなかなか受け入れられない状態でいました。緊急の事態でも面会時間は決まっているらしく、筆者は父と深夜に自宅（実家）に帰るしかない状態になりました。帰宅してから一睡もできず、病院からの着信がないか気にしながら、翌日は福島を早朝に出て出勤しました。ただ、「授業をしっかりやらなければ・・・」と思いつつも、母のことが頭から離れませんでした。

数日間、いわきと福島を行ったり来たりしていましたが、11月30日（土）は福島に戻り、実家から面会時間（14時～16時）に母の病室を訪ねました。そのときにはやはり昏睡状態でしたが、血圧等は安定していました。ところが、その日の19時ごろ、病院から「血圧も下がり、心臓の動きも弱ってきているのですぐに来てください」との電話がありました。急ぎ、父と病院に行きましたが、病室に入ると血圧計は「0」を示しており、部屋中に警告音が鳴り響いていました。担当医が来室し、すぐに臨終を告げられました。

12月2日（月）から12月6日（金）まで忌引でお休みをいただいていた。しばらく不在だったことに対して、12月9日（月）に出勤した際、あるクラスで授業中に「何で休んでいたんですか？」との質問がありました。「母親がくも膜下出血で急逝し、1週間忌引だった」ことを伝えたところ、ある生徒が、「僕の母も3年前にくも膜下出血で亡くなりました。家族と医者からの説明に立ち会い、意識が戻る可能性はほとんどないことを告げられました」と話していました。中学生のときにそのような経験をしたということで、本人はさぞつらかっただろうと推察します。

筆者の父方の祖父の実家が神社だったため、神式での葬儀となりましたが、通夜祭、葬場祭には本校の先生方をはじめ多くの方にご参列いただきました。母は福島県職員（※体調を崩し勤続30年で退職）をしていましたが、県庁時代の同僚の方、あるいは父が町内会長や民生委員をしていて福島市長と懇意にしていたこともあり、木幡浩市長にもご心配いただきご弔問いただきました。まったく親孝行をしていなかったわけではないものと思っていますが、それでもこうなると、ただただ「ああしておけば良かった」「こうしておけば良かった」と後悔の念に駆られる日々です。生徒のみなさんも普段から少しでも親孝行を心掛けて行動してほしいと思います。 文責：清水聖（進路指導主事）

【お断り】 前回の第7号で、谷川俊太郎さんの「朝のリレー」を紹介した際、最近の中学校の国語の教科書に掲載されていなかったことから、「初見の人が多いのかもしれない」と書きましたが、3年生の女子生徒などから「小学校の国語の時間に習った」という話を聞きました。教えていただいたみなさん、ありがとうございました。